

中日両言語における人称代名詞の転用の対照研究

賀 文静

要 旨

人称についての研究はずいぶん昔からなされてきた。筆者の知っている範囲では、従来の研究多くは社会、文化、歴史などの角度から、人称の使用状況、変遷、選択する規則などについて考察したものが多くであるが、人称代名詞の転用に関する考察はそれほど多くされていないようである。本研究は、中国にも日本にも見られる人称代名詞転用の現象にはどのような具体的なものがあるのか、またそういう現象はいつい何のために起こったのかなどから、中国語と日本語の異同を見ていくことにする。

【キーワード】

転用 一人称 二人称 三人称

1. 先行研究

日本語の人称代名詞の転用に関するいままでの研究は主として、鈴木(1973)、友定賢治・中島一裕(1976)、金文京(1989)、角野志緒里(1986)、安藤貞雄(1986)、藤原(1993)、佐久間鼎(1995)、田窪(1997)等があげられる。中国語のそれに関しては、張棟強(1982)、呂叔湘(1985)、王桂安(1995)①、陳輝/陳国华(2001)、王蕊(2004)、劉麗(2005)、王天华(2006)などがある。人称代名詞転用の中日対照研究の方は、従来の研究は手元にある資料の範囲内においては、張佩霞(1996)しかないようである。

2. 研究計画

2.1 研究目的

本研究は中国や日本における人称代名詞に関する先行研究を踏まえて、両言語に存在する人称代名詞の転用の異同を比べ、それぞれどういう目的で行われ、どういう効果をもたらしているのか、そしてまた、その転用の違いはどのような原因によるのかを探っていきたいと考える。

2.2 用語の選び方

対照研究の便宜を図るために、「一人称」、「二人称」、「三人称」という用語を使うことにする。

2.3 調査方法

主に小説の対訳資料か、インターネットを利用して分析を行う。

2.4 今までの考察

2.4.1 通時的考察

人称代名詞に関する文献を調べた結果、日本語の「われ」、「おのれ」、「あ」、「あれ」などの人称代名詞は時代の移り変わりに従って、ほかの人称を表すようになったということがある。それに対して、中国語の人称代名詞の転用は日本語のそれより少数ながらも、“之”、

“其”、“而”、“乃”、“若”などのように、通時的なものもある。

2.4.2 共時的考察

現代中国にも現代日本語にも人称代名詞の転用という現象はある。しかし、筆者の調査によれば、通時的な場合とは逆な様相を呈しており、日本語における人称代名詞の転用は中国語ほど豊富でないように見える。さて、その転用の相違を次に紹介しておく。

I 中国語では一人称と二人称の複数表現を他の人称の単数表現を表すのに転用されることはあるが、日本語には一人称の場合しか転用がおこらないようである。

II 中国語には一人称と三人称の単数形を他の人称の複数形に転用することはできるが、日本語の方ではできないようである。

III 両言語とも人称代名詞の単数間のお互いの転用があるようである。

3. これからの課題

I 先行研究をより多く深く読んでいくこと。どういう理論を用いて用例について分析するかこの領域に関する文献をよく読んで、理解したうえで、修士段階に相応しいものを選びたいと考える。

II 両言語における人称代名詞の範囲をより厳密に限定すること。

III 両言語における人称の転用についての更なる詳しく、細かい考察。

IV 両言語版で書かれた小説、新劇の脚本などを照らし合わせることで、なるべくより多くの用例を収集して、中国語と日本語の人称代名詞の相違点を明らかにする。さらに、このような相違をもたらす要因についても探っていくこと。

注

- ① “ ” の引いた文献はまだ入手していない。
 i 友定賢治・中島一裕 (1976) 「いわゆる「一人称代名詞の二人称転換現象」について」『表現研究』 24
 ii 角野志緒里 (1986) 「人称代名詞の転用について-“おの”系代名詞についての考察」『国語と教育』 10
 iii 安藤貞雄 (1986) 『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
 iv 張煥強 (1982) 〈人称代詞的変換〉《中国語文》
 v 王桂安 (2001) 〈論“人称代詞活用”〉《華南師範大学学报》

参考文献

1. 鈴木孝夫 1973 『言葉と文化』 岩波新書
2. 藤原誠二 1993 『日本人のすむ言葉の世界』 近代文芸社
3. 佐久間鼎 1995 『日本語の特質』 くろしお
4. 田窪行則 1997 『視点と言語行動』 くろしお
5. 實藤恵秀・北浦藤郎訳 1956 『中国語文法講話』 江南書院
6. 金文京 1989 「人称代名詞の転位について」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』 21 慶應義塾大学言語文化研究所
7. 木村英樹・田窪行則 1992 「中国語、日本語、英語、フランス語における3人称代名詞の対称研究」『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』 大河内康憲編 くろしお
8. 鄭惠先 2001 「日本語と韓国語の人称詞に関する対照研究」

- 『人間文化学研究集録』第10号 大阪府立大学大学院人間文化学研究科・総合科学研究科
9. 鄭高詠 1992 「日中両国における第一・二人称代名詞の用法に関する対照研究——外国語教育現場への適用のために」『昭和女子大学大学院日本文学紀要』 3
 10. 張佩霞 1996 「中国語、日本語における人称代名詞の使用とそこに窺われる文化の違い」『語文論叢』第23号 千葉大学文学部国語国文学会
 11. 呂叔湘 1985 〈近代漢語指示詞〉 江藍生補 学林出版社
 12. 王蕊 2004 〈主観性在人称代詞移用中的表現〉《四川教育学院学报》第20卷 第9期
 13. 劉麗 2005 〈人称指示与人称変換〉《高等函授学报(哲学社会科学版)》第18卷 第6期
 14. 陳輝/陳国華 2001 〈人称指示視点的選択及其語用原則〉《当代語言学》 3
 15. 王天華 2006 〈人称指示語的非常規用法及其語用分析〉《學術交流》 総第146期 第5期
 16. 何楽士 1985 《古代漢語虚詞通釈》 北京出版社
 17. 陳霞村 1992 《古代漢語虚詞類解》 山西教育出版社
 18. 《古代漢語詞典》編写組 1998 《古代漢語詞典》 商務印書館
 19. 楊応芹/諸偉奇 1989 《古今称谓詞典》 黄山書社
 20. 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室 1992 《現代漢語詞典》 商務印書館

が ぶんせい／北京日本学研究中心 センター 修士課程 2年
 gabunsei@yahoo.co.jp